西藩乃

安政七庚申

世説の巻

田螺金魚

当時金子屋長兵衛殿の願ひにて
風流を翻訳せしもの

叙

凡滑稽向穴探るものとなる。其新人世に尋ねいえども多く成讀よ。穴成探りて穴を考へ。滑稽とはなる。此自不滑稽多りもとを云の園あるとなる何ぞ書稿の曲と高んや今和文を文。此道の凡文年々其通所得をしむめ

洞津東町
淺野政助

と。隠川ぶ傳紙の巻く。けいせい伝
しゑのとゝ紙ます紀とゑげく。よむ
ことのく。あるいハ。感じ。我ハ。信ま
ゑ。ゝ。ゝ。ゝ

かなふ風俗も。拍子うり。野さう。唐さう。ぞめん。ぞめん。ぞめんを
かぶりさずなを。笠屋。笠屋。笠屋も。花のこゝろ。ぜんぜんも。今ハ手拭の
笠やかぶり。ぶるとくさんくありとて。肩ぬぐ。手拭おさゑ
んーすぐを。色どるこゝろ。世けん男。扇たち。そり。ぎあるまま
まあい。八丈。きぢ。ぎ。あさび。上列。そこ。これらのたぐひ。
ゑこと。山の。雪。田に。く。尚。世の。ぎれ。ふあ。ず。ぶんや。郡内
。ゑるみ。ぢ。羽織。大だぶさ。姫。と。紬。の。新。伏。城。玉。見。を。織。む。
。ゑよ。て。世。の。中。に。ぞ。ん。と。す。ま。ゑ。と。る。人。ぞ。まれ。よ。金。有。へ

ゆゆにていきまのうへ。初。れ。り。三。男。のうぬぼれ。男。の。ぎへ
ことさ。かあい。男。ぎ。ぎ。ぎ

それ猶をいとふ人ごとに然れども孤行あるべきの人道
ふもいとべし。倫理を倫とすることも又孤なる孔子の
世にして孤形ぬけて交。情あるくらんこと貴ばれば
ある人の情よりとかしきに涙しく孤なるべきけそこの
ひるるに魂く義きに島原を新と云と風俗と三ッ
ぬよりて揚ぬるる中産とも多り。是ものども
よりるといしに空なるべし。情は客中に客なく
けいせいの中に傾情まれなり

あるふ松田やの娘川が生れをたるぬるまに千石を仕せる人の
姫まして初の恋いかに恋とといりぬまこと十六の花ざかり花も
恥ずかしき恋なる人なびまざるべなりきこと
かこれとなる一ッまいに二千石を考るまーせり。千石はた
る生涯安次郎とこしー十八なりるが。たしひすくなきそん
めいまて世にもまれなる容色八源氏の君ぞなり。彼の
再来ともいはべしーとてもなまれるかくしあんな男よ
なまくくみこそ。さんよ命いかーそるの男ぞいとこの
なりいとぞもいぬ女いるりりり。物と析とは廻むらん
あるふる拍子の事ぞ。ひよこうとなるーしあふ私を
そのにーー姫まのあいるるもかさめ浜。後るとなる
くふーまくの。嘉の命もくくに。飲ちよくたちー

病の原。上のくこと。目まのごとく。浪華さ一に者。
なく。名医もあくむれうに。高ふ〻ぞれの湯もと
おすすき帷幕にめつ〻すゑ。ゆりの君とうなる病
むそふ仲のやうすをたのこ。見かねさせ一むすこ。
妙美やより川の糸。ひきびむ〻〻。恵の母ぞ。
国へ去のぶ仲。母に糸が一家のやう〻〻百茶も
ますさりろん。日〻よ快乳ゆと。母に糸いろげけ
の叔父の家〻をさ〻い一ぶ。祝と祝とのぶ一の
約束。むゆ〻ざるおろ〻に。かゆ糸もかゆていゆづゆ
の夫をさろうふう〻茶まのあいづよ思びいでな
ま一鉢をたのとふゆ一。あゆ〻ゆ〻へぬ遠恵の
家と病を独居。ほまどる縁もふふ仲や浪草るの

荒川戸口。やつふさる浪人ありと見かてくく
尋ねた。その人いあぞの秋。むゆ母うの雪方とそ〻た
消へ。外ふのこりし地しんの恵八。母ふぐ一よ〻ぐちゆと
狂ゆ夫似ざる大悪ろう。此ひまのるうふさふ。ゆいゆるぶ
かくもしたいやうすを常ふりも鬼のめゆもそふゆふぐ
でもせぬ眼をあすりゆ。

恵八

そりやゆゆとまり
ふさりやせをどふをとるとも。尚弱ゆゆ。あつちふ。ゆゆ〻ゆ

東次

それい赤ゆい。赤ふし。眼ゆ。ゆゆ
ても

恵八

ハテそれもそふなりやせを。母ゆんゆ一ゆされ
ゆとふ。トリの内ゆ〻ふ〻ゆ。さそひよふ。恵八ハ若さる弟の
をぬいでにふうやゆきを。女房の布子とわら布子を

あげさげして。第を座のそこ座れよむとびを載
を座にうけ 吉八 吉やめーやァどーざ 吉
いんや今うってきて 吉八 そんあ〜サアいふモシ
さんか。ちっと山いでもいつてくお出あさりやし
おあやうねぇ〜ァとおそれ〜あされやー。
そんあ〜ちっちやァいつくきとやとコレカ〜ア
おどひーどにあろうト吉八吉とともあい出ーあとふて
中良 おそくどのとやーびよいおまへぐちかー 吉
あんの出あよそんーどーませう喜よ射ても
あうとごのそーきの間あ〜べおむやとめを

あろうのよどーちくあまの身の上。ぞんまあけいるハ
どさりませぬ。モフ居つを打そうあおつられ拓ーと
らうさァおやとそこ拓ーでせトいあもいうとれぬこさいちまハ
て吹迷さよこのしし幸ひぶ名和を布とんやーておや
あどそ名物を拓ぎとあーあうい名田だんにあどき
常。きこさまうせたいぶきーめ。あ〜〜たる紙良乃
花のつぶ〜やひ〜〜さ戸の名めておさくもやそこー
か。名もいあれべ。屋そくんとそほー。百八十たうり
そうこれそれを茶とあ汁の〜ともいなられそろ
あんうのそそひ。うるあ名のびど幸ひくハ。由う名よ猫
立の小振を摂ひこれおく名布とんあそとあり

とりのく一ト通りハおきくにやりたく。かゝる亜(志八)ハ
一ツ布子も手まけて陽ゝ入ーゝ手ゝ中てぬれも
ぬぐひをさげかゞ〜。おもてだん一まいにく三ゝ
ゝぐ帯にゝさみ〜四文せんをかげいゞ〜

(志八)

それ業ゞなるまい。なやと戻ても波幾一トすゞ (三く)
つもかゝ〜もてくるかゝ　いとこさ
よぎ
若ゝ中とんとぉかゝゝ戴(いゞ)さゆ〜た (志八)　ほゞも
あいあよ〜なゝされやし〜縞とおつゝいかゝゝちゃゝ
やせぬそれすゝとちらのきんけかいあゝふゝとんとさる
と風とむゝあゝとぉかゝアそんかゝ〜ゝアいゝ〜いておきゆれ

ト志八おきくに　そのあゝ
さゆて

のしゞぶ。若ゝをだし〜ゝ。のゝとりで二七の日
かゝ〜をぉゝとりかゝ〜おきゆれト志八おやゝ若と女房
そのあとにて　(志八)　モシ　且那ゝんやなちゝとい
とゞぶゞゝとり中と今かゝ〜かゝ〜もとたいさや
すゞぶ二ゝあるとぉゝゝと立ゝゝまゝやかりゆと
おゝゝの若ゝふゝとんおくゝゝりで二ゝあゝ〜
そゝかもんゞそれわゝとゝなゞすゝとゝいゞ

みいまぐるまやゝ老さたゆもつくめいりゆもとる
涙おうしゝおさまやゝ　寺さん　そうゝたぐるい

寺八

そんかゝとうぞゝ屋やごの寺めよかんつがとていせやゝゆさ
しゝ女房八陽よりゆるゝと。おさたわとりかつけて
ありゝとさぐせゝう。かりく聖日ないとあいのこぶ石ゝまけ
て縛ぐいるとさん老母ぐんいこゝか。ぬいかぐゝと
ゝとかゝ寺たさ夫婦でいる而。おさくいふゝ迷ゝて仁く
ふゝ母たとりおいゝそれ寺八おさくをてゝせる。ひら
産ど母うとれゝ。おさくとだゝゆゝる。おゝる
むへゝ寺ゝ寺ゝ縛をゝかゝ一月寺ゝ貴一月ないまり
くゝせゝぶいゝまでかく　ていはまゝぶゝと寺ん俗の

寺ん

寺ん

寺ん

このごろ新小説あつめてこれを

[表八]

おもしろいとこゝに

小やいなかいきとくかおもしろ

みごとゝんさゝぴみごろしにも

ありやとほい。是よりはけてもゝさゝめろ。八ゝとでも

あるなら。おまゝよぼとあもさをまいよ。伊をいやも

あおぐりのかひとこさてゝるかゝぴ。ちゝやとらって

もぴうれやをはせあくぐんかとこぐかりもさを

いかうゝゝがゝうごさりやとぴ。さゝしゝ安さんち

おりいよかんぐくさせやとかゝぴ。ちゝぴんゝなきれ

やとかそういかぴあるとぴまゝやゝしぴさゝ

ゝやゝぴあいひあさい。トいかうさゝくろいぴその年の年とい書て

[表八]

[裏ともむもとんで新やせをどゝゝあくいとそれりまい日や

へめゝくもる

此かんあゝ。わいちぐ嫌てごさりやとぐ。今とい

やゝきぐうゝとをさをておきやゝ九ぐ今食なやき

ぐ病乳にぴいてぼとあをさをとうぴさりやとう

とゝて相撲ゝてやゝてケんあん

[松田や]

紀の病乳め

たんさたやと。勤とるんそうやきどくかとこそ。ぴく

いくさのうごこゝだをぜごろんの様ニさよひよさを
トぜびんの様ニ来て（びんじ）いと安中でごさりますゝめづら
しい生れつきぢゃ。まづ。あ。まあ〳〵たちのごさいらい
あ〳〵とぞ〳〵ぞ小さ〳〵でゝあ〳〵の大指（おやゆび）をるー。い
ふんあ〳〵のあぢゝ一年ちかと（カナト）そ〳〵ぐ〳〵いでよかちう
さ（長八）そ〳〵のうへとめの字よあてくんあん〳〵（作次）
いんやそ〳〵ぐ山ぢ（長八）そんあ〳〵。後又をきあてくん
あトかなるこれ一ねんぶりのつりとぐこ来ーのさう又よきめて
六十あうけとう。お盛ろと引ろ（ゆ）ゝ。のよ。ゝ蓋ろを

（ろけとこ）ろう。おやろん。隅川と五銭なのゝたゝ。内あか
ぬ。ぞ〳〵ぞ。中ニのゝぐ。いとぞんでその者ゝ世ゝ。ほとめ
ゝ。容儀ろいそ〳〵ぐ。ふるゝ。新とそむけてすりしい
むさ〳〵の月うけこ。ゝ。ゝ。ゝ

むねんのぞきりあるせいかたのくるし
見非あるくもの向のうちふかさくぐめいをほい
てありりるくこあり。普ちうかの時あるもとど
ひ西人普法事をいしとくんとかりくとものん達て
の身のくるに毛八よのこすず驚もまこ一年の
身をもちめひ身のもろにく病をもつくやりの
の人をりとて。日ひく来くよ身あるくしてどこ
くもこあるもず看病なすひ人参代と身なのう
よ。日こくふ一あこ今ひて。十日たるあよ又一年かくまで
ひくく身をもづめてもの更の命たをけこく。来のめる
解ごたあくるのすまくかるの湯
もとりくず直視摸床。悪病のくるもに毛八

年代命ハ。十八まて沸くこの角のタりりとどうてもい
てもせ川にあくもどず打りて身をあるくく今くい
されを役りの伝たのくしこふあどくもんとのこいりん
をぬこあくやりていめどやくいどれこの驚ハあく
たのもあくどなまくのまくたハあるまいと及をりさる
豊来のどん考どくくもゆごんハせどりりかく
てなさくハ更をこかどふかどりかやもとくゆりくしど
ロ日たくとやこくん毛八りとりの悪こうか
ものこれなこづくくもあくのこもこ死くハいん
どこの車ゆりりいせい。彩どうやりて彫川が
ごくきくよりなくまり　さどまくぬハ
人の身とぬくもあもこのさこまりこど

とおりていおん。アレ花のさん。おいふんの
髪をゆらかけておげあんし　【えん山】　おいふん。
さんざう。色男でも。あういとまいなんを
なあぶさんとあく　【同の風】　えんさんいとはい。ゑ
ゆうあ。さぶんちもちぶさんよきれさ時
いにゆかなんにもさべいせねおいふんも身に
はまされいと　【せ川】　そんあふとんかぶつさとぶ
むぶらしてられあんとうもうあり

いとぶとふぶるとれやうとおりふあどな
せう程ありうありいかトとれしなうちちや
あるこのとがさ

○ 巻二

あふ五郷（ごきやう）といくる大通の色男あり。色こはうた
ととさとあり。鼻（はな）とび鬢（びん）の中（うち）まぶしく
痩（やせ）るふあらぶ肥（こえ）なるぶ。中ぜいにしてのう
ちりとぶ。恵（えく）ぶさいをよるあ　中（ちやい）ぶいくろ
出のあり八丈その下（した）よかさねいかんとう絡（しぼり）
ま古ととりぶさまこの絡のま紐しめ白ぶん。皆

遠あるこのてんをうけ者羽二重のてをり
ぢく〜菓どんとの菓をむすび。中そくのさう兎
おしー大きくひさいをかつげ。白いてあるぎる水
鬢ち田うらつけぞうをを。さうーうあるすあー
よしてさいさも大やうにあるをうる。兵庫くろいぬうば
うさ。ちぜんと感あつくつ。極うーびうー二三人り
つをとく外宮ぐりとく入りぬ五ば鄙とうるより
郭のうーどもたらまちにめ人つりとて菓ぐ
ぎーうさぞたぐいいる。支形唐いいざ考〜ぬ。わぐ
日のしかるーびあさ仲の町のなげーさ。白さかあ
金盞ちぐざまぜー中に高ー傾様い。隅川ふとく
服ぶらもあさうーー就あとうくー。その風ぜい

お移い粉ざれとも絶あるるおのとく。かざーぬありの
ゆーーさんぞ大ようあせる容考よくにて柘榴裙と飄ー
たをゆうある。長道中。弱ゆ決ハまりぐ庭のとく
てうちんいるにまるとう鄙の兎ハ考んぞうに
紀ゆうふつさ考こぐひ外宮ろ形をよぎうぬく
をぶたむれいる。ふ郷ぶかこめぢやうあ

あるこ隅川金ぢうとあうあされまーとて
す通りいありませぬ 世川 どふーあんーーとく
トいあぐーふさゆうをちとうるようあさりー
夫の面ざーーぷんとれふぜい。そてとうまんーやにぐよ
さりぷちんとかけあさうませ。ぢく今ちよんと二げい

うこ

をかめにうけまして　世間　そりやそうよかりいきう
トみつとりとぴくどさすぐまつりまてぞう
をあとよなかもとり

たんかなんでもあるまてぞうれぬ。ぞう
さまでどぞります。あんでも一矣　いんや
考ようろういとり。彩ぞうよびのぞんあと
かう酒でものんぐいるかうぞまーどうふ
トいんどもかたにくよ。あんでもなまふいいち
りんありとぞだうとにやまりまく立海若者

うき　あんとりく　若者　御川なかむりちが
わるいとて今仲の丁かくなりなさと
かくぞあどらうとやますうう逆てき
てりいーとぞ考んぞうさんぐさ。さとき
のきやく考んあうつまりぞとぞつー
やりまーと
さてさとぞかくどもいあるふきやうをむりに
とあい。松田屋へいきやく。御川いみ郷を
中の丁でちようとうへ人ーくをむりー丈の年の

いやまさり者中をおさえて立うり。最上の初を
ふり行ひてぜめくる文小にて人の秋でもうと
らるもなれうとまつよりとかく大せいどりく
抱とさるかをる。せ川がさーさ大神の大ふるそて
室よりもちぞーだきの書にくーうひをとてかか
をさうぼきのそのうちよ女げいーやいうとのつ
見川かくたちん。何げかと者れを知うん。初金
のぎーきのりたいさーで入くとーりーと
かるれと。一席かくー屋うーとんじ者り
てうきやうにちうりくと女帝のあをとうたぐ
何とかくそのさかりーぬーとんかうはう
一ようりの氏神かるといせいのかづひとい

猫よまくーび禁よるむとー。せ川も此秋人物うすと
志ぐーい無ふ入りるがわどかくざーきもひ。あれ
び風流つくーす国やの献置綿の秋ぐ長綾の布巻
名ぞの抱よせさーとある流ぞつもようーせ川。性云
わうんれどもうぐどーとくーど書ぬ日かーのむも
のいくあぬうきれりひぞさかういうるより氏女
うきことなりてぐとーに何をかりかやと
思ひかがーうーとくまぐ流ーをかこー
てうーてもいくかりれば。せ川ハそうくとおさこ
あがうーはをとてぐ鑑明うーげ。俗名幸ひ帝
そんぞいいと者ーるせーいくひを。名虫ー水を
たむけ。どもづけまぐり志ぐーぐーぞうかー

るい。一つの羽おりを五ぱ半しぢき志めて
ふゝ志ぐひる。ふき毋うゝぷゝと服を学ま
さてゝ山ごろ。志ゝさゝ人よ。死ゝうれ志ゝ
るゞかゝる。愁のり小波ゝざゝそほとめのゝ
うゝめと。そゞろよあゝ丑を。もゝふせゝぶ
めさめとりと。志る志ゝばゞざゞさのどゝよ
れりふべゝと。ねゞぶりゝふりよ。恋も志ゝを
弁屋ささ丑ば学ゝめ。ことゞとゝ志に
別るれゞ。きぬゝ。おゝきゞせ川ゞふゞせゝがてん
ゆうゞるすどもあゝ。うゝれむゞゝ志。若者
ゆりて。彩ゞそう山吹の麻苑衣ゝうゝん。ゝ川の
さゝとゞ。志のたゞゝもゝとうれゝる。せ川ゞ

ふるゆのいぷゝも初舎よかゝゝぬゞ。とゝいうゞゞり
と。ゝ舎めゝる間のゝゝたゞゝねどゆ。ゝの糸
くゝりあゝまり。風流の花ゆはゝゝぷゝの
無いとゆ。ふゝゝゝもゝゝゞ。入相のう松よ。花いちゝぬ
どぷゝゆ。ゝぷゝの滝よゝ人ぷゝんて。夢むゝよあぬ。酒
の志い。立ゝゆゝう。麻よいゝゝうゝゝゝゝゝたい
ゆ志ゝ。ゝ打ふゝぬ。世川。ゝゝ志ゝゝんゝ
よゝく。療ゆんゝを。ゝトいゝ志ゝゝぷゝゝねいゝゝぷゝゝゆ
いゝいゝをとゝり。ゆゝ。麻苑。ゝゆゝす志ゝゝのゝゝ
ゝりかゝゝゝよゝむふゝりんゝん。牙ホふゝるの麻ハゝう
ゝゝけゝゝいゆのゝす志ゝ。ゝ山ゝるの尾の志ゞゞ。ゝき
志ゝうゝの内よふゝゆゆゝゝぷゝゝとゆゝをゝゝまゝう。世川

そうと行おどろきぞうの者めしいてるをう
こゝはげあく麻よりう
おめざめいしたうぞぜきんあに祐あんをく
いうそさびしうてありいせぬ 老う
あこかんきんをあふとうあるあれう。
かまうぶまし老うあとふ老んをの法
老こうぷうあるへよまむけの水うるかぶぬ
おとあるべ咄してうさぶうしうと
こうれく老ぶしあくせしぶ 世川 うの

おあうりあんしこうしうはうりあうれ
どもおまぶんうりハかあるあり 京きあう ハテ
老んなまぶとそ一っ老ぶ。ようぶあさいあぶあうう
とあなうきしてうこうちうとはおきのうれると
もあるものとぶれしく学さのハたきおそうと
老こぶはんまりそあうふよぶるとうまぶうろうものぶこ
そんあとさん二志憂掛 世川 あんと学あんとそ
酒ぶきしいぶうるいこ

そうとあいかくれしをきいたあるさそさけと
こなんとてありしゆうが。おもよかけあんして。
ゆのくらんあんとたぼうどされくお世りゆくるか
〜ちょどわさしやまのためふみをうまいしと表
でおざんとぶをまるに死ようまくなる役りのあいみのと
でおざりいと　ト　おどーあるたよられるぶ
ゆりくおめをかーぬぐい　せあてぬーで
もかぶあんすとぶらんとるいつとしれるむまもありいとが
外の客人へでいーてハうるに問ゆ法とまりいせぬゆく

きとくあるいい。軒の内へ死ゆ者れぬ者ゆじんのかーど
ささ〜傾とゆつーいとが。むの内いられるあんート
ちろむくのろたうけるかあげどんがうーるたうちうう
みきあうゆ。明ふかうあうどのきゆ。学ゆにかーぬぐい
[みきあう]　とーるゆゆうぬよざうきるい世ままかあるてび
女の鏡女いさこと。有北きゆ。ゆうど紙ぶとむ
ゆうあんふゆきうぬト。ありかあきんゆーあくのむい
と表色ぶでーちんゆ。ふきうぬ。ゆむれあでかーいるあくはさむうい
実ーたゆれぎりたゆあ。ぶーぶそれくまこ変うるいーが
ある家の家のーがゆりたゆ[世川]ゆ　ー九きあうーさんーきあんー
てゆ〜なのの女いありーあ　ろくゆねいかうーあゆ　とおゆひあん

しそうそう和くそう者〳〵ぎてケんあんまんとかいふはぎで
ありのまとく（五さ者う）どもはうう。れんでもなしいっぬーの慰心ハテ
さどく〳〵方人もなるものとぞふいさかーく。あとたかさう
川井のさそはとあもつくうう。せめておく〳〵かもい歩て
むかさ者〳〵。ゑうもさもさぬーのんをがんぎるすんー
かゝゝすはとめと。ゆがさまゝ〳〵（せ川）りと
そういく者んをはもとめもと更の髪よあうを猪宮め
丁でふうとうんさ。ばう〳〵むねいうく〳〵つけど。にていあんす
とて外のお人。ぐゝ〳〵いとう。思なくうれぐるわと
をいさおうとうふわどの。ぜひ〳〵だもとのうちで
くるおるもどの。なまゝ〳〵お新をうう問いっぷれしいせ〳〵かゝ
しいせっぷぐけるせうう。むれのうち為ぶもぼくきを上
あをいせまうさう。今のあうとぶううれをあふ〳〵ふうぶ
ふびんとぷあてくんあんし（五さ者う）（せ川）それいうそぐぷぐれ
をあわ〳〵せうとものるまい（せ川）せうことといあハト
うけうう。けうものるどもあぐもう。うきう心ささうあも

いりどと立さあうようひ〳〵といぐいぐそつきせ川をつきのけうく
なく〳〵げ（五さ者う）ていあんとれとれいの外。えさげうてたるぜう
ゆうる者。更の新のにて者ぶ。外ふもあうさぐとれもはを
るう。おとぐううとも。けぐらふ〳〵いトさく〳〵せ川だんす
ようりうう。かぐうをえいぐ〳〵ぷおもいつめてぬさ〳〵ふを
むさあうふどびあさいてきとあ（五さ者う）伝ゆ〳〵に者ぐい
をるのぐ（せ川）伝ゆ〳〵とい宮者ますあたとくうと新おれば
とて。新やかうちにほをとうを上てうう。さん〳〵のぷあさけ
ふふふんとぷまうひ〳〵わさ〳〵ぐぷぐりゆち者ようくゆあう
うすれ道ようそむさ〳〵ぷちあうう。思のまうたぐちあ
ちを。伝めんやくとぷいさ〳〵れすあう（五さ者う）さやどに

ちのふんぐ〜ぐ〜ためてあんぢうみやうう〜トいふれて世間ハさう
がてあをと。ふるあめ〜ぷ指をさう〜ぷくらにてせうのぐ〜ドをあぐ
あぐ中にいさてい室をぷ〜ぐ〜ぷでい穴をぐ〜〜うせんと。二世のちいをあ〜たりう

○ 第三

夫より五さあうい雪のあ〜と。雨のあれいとひあくうさぷいねべ三ッ秋のだうひよあをかとちーに月日をふせぐ関ちかるれい
ふたに〜年もの〜ふの松ふかあ〜初紋日せ川を日の出たちに
ハぐびう〜どの打うけよ。やどよくぬい〜浪家のハをぐ〜
義をあ四をとうう〜とあ〜ぷれまハ金ふのをふれぐ〜。そ
つきハぬいあを浦茨ドあ四をとう〜ぷい金ぐんあてぐぬいの車

ぐ〜。ぐ〜ふかをあ〜ハ。ぬう月〜を白ト四すむ〜ぐ〜うあ表
ぬ一ぬうぷぐんん〜紙〜のをとそりあう。ぬるいハ井ぐぐ〜ハ。ん
ぐ〜茨ぐ〜白ぐ〜。発ぐ〜ぐ〜をを〜のをを〜ぼを〜
一ト点をぷ。動ぐがぐる常ハいりぐたうぐをう〜ひどれまハ。ん
ぐ〜をををよく。ぬうせ。柳のを〜をかあ中せををよ〜う
ぬるみどうちすぐハ。ハ大をぶをのつく紙をまで表ろをも
といをを二ッまう〜ぢちよ〜とむををんでぬをどぬいをう
たいまいのぐ〜かよぐいれ茨ぷうんせをあをぐのぐんぐ〜
ぬるいハぐ〜りちがいふ〜ひうう〜ぬ〜のんがどぬかぐ〜ぬ
さ〜うぐす。雪をあぐむ〜かよあを豆ふハをびうう
どのぐうむかをの茨ぬりのをを弱ぬ紙をいてぬを人
のをれのぬふををを中せぬいの発ぬぐう八人皆一手

やうのことでいせうぶまくやぶさまく〜業やの
家内日あり〜あくてたいこばいーやぶいことうぐさ〜
の紋のそうーさせあるとう例明ぐいーくをぞうこ〜ろ
ふもかつぐ。おさやうがかくもんうーぐ〜あるゆあびし
かく。風流よりそのいあり。せ川い業屋ふまちいろ
立さやうい元日二日の礼もそ〜よりて二日のダこれよ
せんどこにおせいのうこをぞうこ大門よ入来る[ちんぞう]い

おいーん（あそこ）お御さんぞさあんーとトいそ当〜
いでむく。中にも業屋のぞこいーゆ初まやぞうあくこと
るいのかーこちふさやうはれしたいとのぶんてんこれい
さういさくぞーどこしい せ川屋どよいふ出当こうでぞう
ますぞ。せ川よういあぐ。ぞこいーぶさくぐこれくぐなりいと
[ダころ]あやまり。ぞーこいあやまりとうぞける[大せい]やんや。

これいあ志やう一ッ志めまやせうヤちうん〜〜〜〜
トくさ〜指でさこせんぞ菅をたくこ〜〜川こ者ちいもの
春こともやく志ぐ〜〜くこれこう松田やこもゆくいせん
あるこあせりう風流春こうけ一ぢくい用文の画こる
絵角山のくるのこ二角のむいこふ。物と絵をおくる
平書さんと香ぞたぐこその外ぞこいの業屋のうず
かぐこうあるよ。ぞーまやあ〜ぶ俳優朱
儒。山元ゲ三絃ハ雪ふもぐきぞのぞーの杉風ハうまう
ゲ現今の書よかーうぞ。らんぞうかとふぐぬちんよい
九郎脚いあうもんじのあーんぞうりおいもて
これより。後引えこをんよあこりーハ。きのどやぞ女
あるぞ紀業五十歳。かぐこきせすーとぞ。かこれ二美
ふハ。虎のあげハたこ大こうあて二うひ中を
のめーもこる。三ぐんんよ。水あろ補ぞ。ものこうーいん
まのりやうたい俳よ業屋のおもいろをぞまま大五五十

俵ぴ屋いろぎの比丹のぴいしゃぴでんくーをさたうけ
しーぢゐ十俵の豆よおさり鬼い外をあくいぴうらの豆
ちようぢい赤門ゆまあふぴぢもらまて豆でたいとの
持能とぴくらあのいいてざかりるぷたんよいゆーぢい
むぢりめんぴいこの赤八よりるぴうでんのめどかりぐ
きんぴ彩ぞう花づるこ豆をとる 赤八 花づるさんお
まくのづきんと比いゆーぢとりうてぴんあんー

花づる イ、エ とうちゆづきんぷりりいと 赤八 伊女のに
そうぢぞさんゲかふ〜豆るものぢ空のうそのはさんで
かのをとのづるぴりりこあぴそんあ〜ゆーせぴ
うりりに此いりーをたんうと一キどおまくあぴれるぴさい
あぜとぴいあそこをを郎中よあてかぶりさい 花づる そん
あむぢをいゆんさぴ〜せんどもかーでふ〜豆をんー〜
赤ァれいうく 赤八 花づるさんぴぼきんうぷの四さんいとう

りりをとてぴんーこよ 赤八 おやれ風さうんを
さーいぴいるくふあうぴんーことりーとりーゆ
たさりぢぴうの外ゆさすーぴかーうこそーこぴ丈
りりめんぴうりぢんりりーに豆なてぴ二ういぢ市の
ぢりーりりぴりりゆ中の豆いいぢ豆にはくせり
進鼓退金の例よぴりりせぴバッのうゆとお場として
みあーくさんとぢりんとりーあとん。せ川ゆ豆の豆ぢら
ーせさーとあーと豆ーぴ。赤ゆりりうぴ。赤ゆりりうこ越王西施ぴ
りりんさぴ。むんぢーと二世三世といいせのあさ千ぢりゆ
をひりう座のりりぴまりーりりぴ地をいゆあーりりいこりりん
りーよゆ。赤ゆ豆ぢりりーとりゆ豆ぴ。三日三夜ぴりりな
ぢすぴ豆ぢ豆ぢ豆ぢりりり

三度の役者も一町ばかりいれ。あるいは。あるいは。酒の味さいで。酒をあるいは。酒のかわりで。山をつくりらら者の。かくなるさとうまいまいつ。ざ。くあれい
うくあるいて。さいてうぶ山ざとの。くといふむあるにや。あれを
りんてなるまるな。おのの名さく行つの。ってたなるぬ
どくむとこ。今へたれよりかんも。あるよべもれてく
ゑも通ひ。ちさせ。ゑ。ゑ。ゑ

んーたいそうふごうたとあも
いあんーてそれぐあうこさんとまい 四風 そんるら
ちよと使うでもぞあるんーそふかぞんでありいと
[ろ山] おいーんーどうあどふ御さんのあくのいやうう
拂てかあげあんしぞんーそうつぎなりいと [せ川]
うんかぐ能そんかふ中さーくいってをあんと
こうさーもぞあんーじていをとぐお様をとうかう
客人いあーー氣ぐんーじゃアありいせぬ 四風 うそー

おいーんーアいをやのどてさんぐ新こあんしこぐうい山
さんとやーふぐをかーーあんとぐ高雲とやーいく
とうーぞ客人ぶーてかうてばらしいを [せ川] の風
さんトあうこうぐそうーぬーじゃアあいう 四風 めぐ
ちそまいぞ今ちこんかーーあんとこーいなりいい
おいーんーよーあんしそれぐやアやのーでぐいーんぐ [ろ山]
こうーぞうーいとこ [ろ山] そふさんのいかんすもむり
でもかーいをまいぐ。おいーんーどーーあんとやぞ御
さんのたあぐこれりひなんーてぞいやでもあーいい
せうぐぞ風さんのいくあんをぞ通りはてぞうんあんート
いーぞいーせやのぞいーー四あてうこうこーをぞひぞー
いせや せんどぞうあーーこ相山あとふぞ世川あの

ホ（あがりたいとぞろてのお形でめいさくいてこします
めどそそくねど宿位のそいい。おいしやどこ〳〵ぢんとも外出の
こるいしとへどさりませあねどうぞけとけをせ川さん（トふく
おこしあ）なさんてゆさりませうさこ〳〵ちくこ〳〵ちあ
んして（うきち）おいどんにあんぜんといあんせうがおもいしねい
ぶまアほれてきてこちんしん（いせや）それでもつまアてきこ
ときにまちがいができちやア（うきち）そんあたねどいちあん
したこ〳〵。できることでできいとまい（いせや）そんあこつれて
めいりまと。あんでもおまき（かたのこぶしやとトまろこんでゆ
くうきち）おいどん（こんとうぬしのぶちうあんとこをい
しこと（せ川）あんどこ（うきち）今アアいせやの。はてさんがこて
きり山さんとやこのこをたのこあんとこ。ほれてきあんこと
ないこつしてやいいちこと（きり山）ようちあんしたそれがおいどん
こちなんしてもとしんちあんもこちらやアこういとめいもこ
おいどん（あんやこうおいやでもこいこちいやといあんとこ。ほし
こんもたちいこと〳〵ハテ
かしやこ（おこうあん）たこ〳〵なのとちやアどこもこあこい

せこうこアほのつてもぼらせいしこ五郎さんのあごこれのい
あんこ〳〵たこ〳〵どこあこつてもこあぜあこいこねいこ（トよつて
いこんとこ。ホ（いせやい。ちこたこきり山とこきこんてかこあこい
こごこ〳〵こ〳〵元来は大どんいこどあやこる利をおこむれべ
ここるこごここき。金のいこと宝さこつている所へさこつてここ
ごこさのこあこぶちこ〳〵だいのあこへかこかことも時をかこるめ所
ちこれどもこきこあかこ大どん（きり山）あぜこんあこ金こあこる
ホ〳〵。ホ（金）合ちもたいのここあこ。あこんどあこ〳〵アあこいやこごこそこリレ
ホこてもこよこ（若者）ちこんあここ。ここそれのめ〳〵ト小利のこぶれ
おこいこのこんここつこだどん（きち）小利の雨でこあの
きこたこい〳〵とこあここここ。こここ

の風はきり山ぶかうをゆびさして 風 ぬしたちの考よさを
ゑとあ トいろてうを きり山 いんさあらアその考よさぶ大きぶ新
をゑとめぶうをいんのこれどもぶ ずとへおゑぶことぶ ト
いよ西よそや。ゑけ西の ぶようこぶ時。ぶてうるきり山
大しんぶうをうづきんよ ぶ大ぶうしむせうう
まだきり。行ゑ氏きんどうどもぶあいきて
ゑ山 ゑいんいんぶ今ぶ ぶおこういきこうこんちうが
きいりいしたぶんでかり ぶうい西しでゆぶおこうせゑん 羽山
癖ぶよゑかどのとう ゑ山 おこういとこぶこんこうぶを
そうてめうこうやぶおさまういせゑ きり山 ぶまゑゆうと

おゑこうをてゆうう 風 ぬしやアそこうぶこう
いうぐこういと きり山 そこんゑ。ぶ茶を酒でとしてむゑ
さこうをてゆうゑ 風 こうやアゑんでありいまう きり山
いうこう狼山のむこういぐ ゑ山 そうやアあ嵐とう茶しやア
あういせぬう きり山 あうるかどねづよとる客よもいう ゑ山
きとうやおうこいきたよ ト きんどうどもと西を門 きり山 せ川ハ
どうあぐちんとゆいうぶ てきてう西ろ ト いゑあくこうきゑ
かけきてう
きりふね の風さんぶいんまう被ありいせんどゑ考いせう

ゑうよでぞいます　[の尾]　なんじゃあんとぶやうかつけ
ゐさまるぞあんでぞいと　[そう山]　てま〳〵ゆうゑぞ
医者よあれば　[の尾]　ゑかゝゝゆうゑぞいとぞ　[せ川]　でもぢ病
どかゝゝていがいぞれいをまものを　トとそうゝゝゑてゐる内よりも釜
ぶせうゝゝゆうるぞれイのいたゞんはくよまりせてがもひしゐる最
のゝゝたせ川よむゝい
[そう山]コレ　ゐ迄がこれかどぞれをもむよゃせんきだのぞうけ
だのゝと　ぞきどの事もぞうぬとゝそうゝぞ〳〵ぬぞ〳〵せ川の
居　[せ川]　たゝゝぞたもうまゝゝぶやうゐ考をぞのようた

いつてゝ迄あんまいぞゝゝ蟻しいよでもあれど
わゝゝやぞゝゝいすを考いゝてぬゝよかゝゝ仕ゝの
客〳〵もゝゝたゝゐ迄ゐ結常ぞゝゝ後悔段引す
[そう山]今ゝゝ事をゝゝゐぬ安事い孫ゝいぞ紙ぞゝゝ
考て〳〵ゝゝぞ　[せ川]あんがうゝ安ゝゝうあんゝてもあんん
まうゝゝゐがしゝゝてぞれゝゝれいせぬ　[そう山]ゝゝたもおゝぞゐ
まゐ〳〵の考んちゝぞうゝ更ぞみゐ悪後悔ど　[せ川]ゝゝまゝふぞ
まぞで通迄ゝよゝれども今でゝゝまふゐゐゝぞがつゝてゐの

あんぺいはいとうぶ出て日ごとぞせうの中に外の宮くへ
ちぐふれ〳〵と祈〳〵さんへちらし〳〵どち〳〵のあれらおそ
ろあらうおぐんを　[とうり山]　さるの者をつぐ〳〵たとく〳〵さ〳〵
傾城のぐまい。ぞせう　[せ川]　外のおうこん者〳〵ぬとおぞそ〳〵ぐまい
めんをとるをう分。此所川と思ゑんをとうぞ〳〵ふをせ〳〵〳〵を
ぞもどぞ〳〵ぞせうほどぞ〳〵と者い〳〵たゑ〳〵。ハテをゑこそれとよろう
あ〳〵ぞせ〳〵ぞ〳〵てぞ〳〵ぞうゑかとろぬ　[せ川]　とゑ〳〵ぞ〳〵をけれとぞ〳〵ぞ
ぞ〳〵ぞ〳〵ちかぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵

酒くもこ〳〵にさゝりいをの声ぽまとす廊たどんぺぺやふとんの
うへきり山せりへどこたいるのと

せり

あるよいととゝかぞさてなんぺぺそこそせうをきまごろ
名ゝいせねうぺぺ人命をうひてゆりいとぐぽあんとりうて
ゆりいせうへ

きり山

もどゝてもぽれごきひでもぽ鼎とそか
たのぽきゆゝかさせうぜいしゝでうこごいえゝぺぺりうあれ
とけでゝぽうまいごか

せり

ゆとあどうく

きり山

ハテ

あどうくこと
とゝあいぽあるこが眼のあいぽゆうにゝ郭の間へめこを
いるこでゆのもうあくいるあれごあうこあのかゆもも

あ鼎ふぽあんて生せるぽりうでぽうゆうゲコしなのあうう
ぽうめもあ落部ことあ訳ぐぺぺうあいのぽうもも
ちをあさあ伺ぐんてぽざゝきらうゝがいとあられぽこ
たりかんこぽ大病ぐむりたいかうぽゆとくぺられこ
ぐあうこぽ今どうゝ寂滅爲樂のうこてんうで地獄
くきてぽそうぐであんべい

せり

生いうんのことで
ありいとうゝ

きり山

あるこも桐山うこをうふうゝトゆうさて
とんとおりゝどさとぐゝ

せり

ゝのまうぽきり山さんとおこさるぐらうゝのす
をゆうくさをゝふあんすぽあさあうこんのるすぽねうゝぺぺのあいすでもな
りいせねぐぽうゝゆアさんうゝとぽれて考ゆいゝいこりのをそれごかゝどん

あるとらくあんしてゐ。ねるゝ〳〵さるやうかりいせぬよ。そしてうんちが
されてゝう。やさあゝさんとおやとしあんと。女房一しぶりいとう
今いくあんと。やうかりぶ。なのたゝ〳〵その女房一しのやうく〳〵さこでゐ
けういぜうよ

さり山

外よねんとろか。女房といつもみてゐるいあとう
ぬゝさまゝあいたぐかこどもぺこ〳〵ばけのぐせをく
らうてあまいぞたちめ〳〵ぐるてぺつてもるすの病
氣のことをいつてゐうぐあもせぬりのをそれく役りぐ
仰あるものぐ。かまこゝ大どうく〳〵ぎこゝゐ御め
ぐぐうとくられさゐゝ。ゐまこぐ家来のぺうんとぐさい

あとぐうゐあかの〳〵ト生て世川へかどろくむねく家
とぐうんでいさまそれぐぐんかゝなんとすうとおろくして
世川 そぐんぐさんのさいあちゝあんといふぐく
さり山 そりやそろ〳〵とさこ山ぎこあいゝが立ゐを
ゐるゝぺゐつをゐゐ御をゐるのぐぬゝへいたくむとぐく
どもぎぜんとうるうぺいんのてらし外の賓化を
とる。此相山ハゝたぐもあい 世川 そうゐひあんを
のゝぺうぐぐりあんとぐ氣のやうひされて者ゐう
と五ぎあうさんぐれるでもゆてうあん さり山 ぐれ
まゐぐぐぺゐゝ 世川 そうやゝされぬまゝのやさうくぺりぐあり
いあんと さり山 そんあゝぺぐ世川ゝとうあ 世川 ぎぎうゐとさも。

あいしゝあいでん　きり山　ぐちがいなくるとぴつかうぐちもあゝくもぴつと
ぬぐぶいとちのぴきゝゝやあいろ　世川　そのいとゝゝもぬゝのれのすゝぐ
ともせぬうちぴゝゝん　きり山　あれゝゝごろをぴゝごうあゝゝんゝとり
身体をせうせ世川あゝどろくゝゝとうかゝゝごいせ川なきゝゝうゝぶぷゝ
ゝうゝぐ今ゝといふ舟いゝゝぐぴゝゝたに水をあゝゝてゝせうゝれゝあゝ業
面をゝぐと声のゝゝゝとうゝ業面ゝとび来ゝてぴゝゝをゝゝゝゝ

きり山　あゝゝゝゝゝゝゝてゝぴゝ今ゝをよゝゝすゝ千あでも二千あで
も瀬川をゝうけてつゝゝとてとゝいゝゝゝゝゝトミゝゝゝゝんゝとゝゝ
ゝつゝゝぴゝをいゝゝゝぐゆりゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝ

ぐとそれがかふきう。かさんをぷあいちうまちぐぶやうかりのいん
ことでもこうらいまぷがりうかつらいをこいぷうけてれあんー

世川

たのもーいと能動をつけてくをあんしだらとさ
能がうあうとくくとでたぷのてときひーとにきんとのい
うんをぷうくいあ帰さんふ。今一度あいるをいぷうくぐ
どんかうきめもいとい。きいせあ（うきと）それでうちも。
かちふきぷーた（サア）さだらしに酒でもちつとかあぐり
あんー（トいふ問答やい。さう山より金さうけとうぷ。せ川の分のきろ
九百文ー。きどうーの八月六百文能金。なるーて千七百文にて
わ川の一件ぷすめば菊やのだくくさ内きあうのぷくくこび きるも きう
ぬもぷ。せ川自分んの子弟のぷのこーとそのようとひこ川くてぷ。せ川が

世川

あくくとせきちくぐ。きんぞうをよびあつめ
わくーや（モフ）待ぐさそれくぷきいきかくくこんかぐぷまめで
勤あんしぷきさすきさうをきくあんしで分やうきやうを
能きあんーかあくびわくくいあんとあくまよぷけても
あ帰さんがぷとあ中でいあんして分結でもきあんとあ
らあまくぐこあぷかうあよせるたぐんうありいーてた
んとぷうふをうけいーてわとぐきあもぷくーんざし
ものこくすこんあよぷ。やりいとうくー。いやうにとけあんー
いさいのことをぷのこいとくぷ。まぶこんよあいあんーぷさ
ちくあうくとせりぷんまくあいぬよいせやのこいーぐサア
ぐたのるかぷきくくつさなくぷあをきほど

たもとをぴらぴらあるいてくるぞ。そりゃあくらいあるぐるまをふるうて。せきるるあるいてをのこと。あれしぐるまをあとたゝす王船君ぐ
きむう。夷てきの単千にぐるぐれて燕支の舟をぶげしも同じ。行のいと考。れとう

○ 第五

そう山八せ川をうけ中。系ものとして。ぐるけどもけびゆう
の麻ふりつけられて一千文のくるくるもおくずいよくもがくお家の
考ことぐもざむふいうんぐにぐきびくくみきゆうぶあうをを
にどあせ川ぶをぐをぐとをざけ。ぐみてくぐごてのせ川ぶさを
いりそう山ぶろすうれぐうんぐいをぐくをうて

うんぐ
もしかまく食いあんうぐぷれをおをくいふぬまするう

せ川
をうふうで強出されてとうふう

うんぐ
しかく自

是程なめをうけでをるわとしまあ是かぶをおうれます。お身の
大ぐたあるをゆゆうか。けうかゆゆうふでもぐうます。せぬ
お前もふぐむあいむをこの紙をこいをぬをぶけをゆうか
あんかゆゆぐた。生つをなのふりうぐ。ぐよなんふ
わぐぐつている。お鼻さん。あとぐぬもあをぐぬとく
あんまりせうぐぐりませぬぐ。

せ川
とあをこの草而と
ゆゆぐたゆんまをあ鼻さんとあゆぐぷゆんとをく

うんぐ
ゆゆとあとあぐぷくせうめあせうちよかし

あさるゞ又かまへ由こゝゝゝゝ出あるとゝゝゝ田ゝゝゝ
いゝとゝゝて合ゝゝゝゝ拍。そのゝゝゝゝ

ぶうまいことわいちもぷいちんところよふあらいす
かくぢちょんといとあをいとを高いせんぐやぁさぐすくひ
せぬ　きり山　くてちょぷわうふかやまひごふけさぐすまぐだ
死ぢくらをき考さ共んぷ。ふあるうをるやうたるあんさく　世川
そんあた。能もなりいせぬがはいむうたらくさんぐ
うこたよりかんてぷいれそうかものでぷりいをと
うくさ　きり山　たとくいをるとてもやこわうやさぷ
ぎまでくんのうるめもぷなるめのごよ考ゆてぷれも

今うくぷ又なゆ中きんくいうにやふくぬ十二とものあくと
くへいくうトをいうけくぷさせるをくうとこさ又ゆ中くさ（出たり
ゆ山ぷ。ふゆてよりせ川がにげぐどよりさくぜん除ふ
ゆある考とよふぐんぷびくくえのゆくずを三ぷ（にけあいてち
ふんとぷくうぐよりはさくくうくんぐくずゆ考ちたゆとをとくくえふ
されべのぐれくうゆされゆくうたむうふのまぬゆふとのまゆ世川
ぐたゆとも引ふくべふぐきれざくんとの一ふくよゆくすぐを
らくく結をふりくうぷ。ふまりせてきげいくをいんくいはと
よりゆふうけるふをいよくせてゆりくおいふざかまくかくる
くぐをとりいそげばゆふゆくぶのくぐ

えんど
ぷ考いふくをひのまくねんくさんくさかくゆふとこくく
てめいうせくと　えんど　ぷくくいふてのまぷくくアいそいでゆくされ
えんど
のまゆねいでいそぐれるゆんでぐざりゆをうくそんゆふ

かと代をくんねんし　えんど　サアくさまのところだぶ
さ命ず　えど　こりやアかんでどぶつ事と思うぶ〳〵で
ござり事と考しふさりやとう　えんど　サ　それていさふ
の一メとさあと〳〵やアねいろ　えど　かさ〳〵もぶふる
をいふさるこれぶアア考〳〵ふい人でものせやア考さい
〳〵さて一貫のさうあふ〳〵百貫百ふ〳〵とう
まんうとんていぶいぶとりのさまんごぶんごふる
のかん〳〵ぶなとう〳〵ついてくるをのこんてやりやア

あい〳〵にものませてよやアふりやせぬぶんとさを
さうせてくんちんしか　えんど　さ命のうへ〳〵ふ〳〵
ねいはそんふぶやとりてい〳〵のしやアねへよさ
えど　こしな　ん〳〵さいさあれふさるふぶちんぶつよ〳〵を
此うごをでんど〳〵ほごたしたたふぶどうぶ〳〵　えんど
むさアねいんいざぶかしてちよびるべいトりふよせ川い
のうちより三あなと　せ川　これでのこるんしてかこをいそ
いでくれんん　えど　こりやアなんまりとんどうぶあまくのよと
やうぶされいさう〳〵あとふ〳〵〳〵ふてやりやとこれさ
なんとまるまふよりふいまもんているぶごそれぬもぶだ

なんつてもあどこでもまあ〜したがねさんたちいんでいきあ

うえんど　さあさまでもあ〜ねいちこりやあどうもあるのどう

ど　爺〜がうめこうまでもきこがあきかことでいたもこと

やはくとなるまさけどぞだれどもとなりついぞんにしむとされ

ゐけといふうどうきでいきうやあか〜ねいちこるつたしめ

さいのかうこうこのいの角〜とせ川をかこうりまけいさ〜

あどんのこあうこにてたちこうり

えんど

こうがうめ〜ぞちこ〜をこせるあ〜たうありが

ねふ〜ぞこがねいきう〜。ぞこうあふこしが

ざい〜ふあぞいちふどぞうますちうこあひ

ういふさんあ〜ますぞきうこがれあさんたう〜

おぶいあ〜ゆせう　せ川　うどまあ〜ゆあ〜ゆてあうだいぶん

ぞうこ〜ふあういい〜こいあういてこいせう　トたどるあ

ゆたうこうこ

ゆけちう〜たるたあ〜にしてゆはいむこと　の南八玉川

ゆきこぞここて　ゆうさこゆ。さあ　ゆ　ゆうこあるうあめど

すゆきう〜ゆきんのゆこ。ゆゆ　ねうこうこぞこくむ　の　きこと

ここ〜ゆう〜ぞ　ぞのゆこあうあゆきこあ〜ゆあゆうきたびゆ

ぞこ〜こくこゆあうこあゆこうこあうこうこあ〜なま

川のねうこ〜にここここ　ゆあ〜

せ川　こここゆきこあこうにねむ〜ぶがあうてこいここ

えんど　ちまこ〜こここらでう〜こあうこうちゆうどあゆあぬ

ぶ　せ川　ぶあ〜よ。ゆ帰さんよゆあうまでん。ぞを　きあて

いるものとよぶぞうらいよりもあんとかぞうくくぶりで。
ふ鼻さんよおつとらくがなんまりのうまくさた乳ぐ
うくくしておもまるいうさまもちんとだといあり
てうくぶふうらどぞうさとまゆうだが見うくぬ。ぴいちんと
巫くいどれをとなうく。うんど 重量も考ぬぐたいぐい二三
十里うにぬ十里もさ 芳川 とうもうらいうぐうぶんか
うらい巫くさて。おどうてうるうらい。うんど おどうらせぬ
紙をくふ。おまくがなまくをぴいくくく

だり〳〵ぞ〳〵いさ〳〵ひぶ男とく考んゐ〳〵すぐふ
女房いもとぶ考ゑると考あこうとぞ考てこのうく〳〵るぶ生乳の
さうぃ〳〵ゐ〳〵の色すを考ふさい 廿川イ いゑでぶゐいが
そりゑそゐと。あんまりでこのうぶぞく。ぶさゐうさんに
ゐ〳〵ことぶ。ぞうとゐりと女房よ。ゐうとかつて考ぶい
よゐ〳〵ふ紙。ぞうふなとせて。見ゐぶむ 六下 ふ御〳〵と
のさまく。どゐの考〳〵ぶうめ。紙の月のされ死ことと
ぶつてぞ考とうぶたゐ〳〵て考まつと 廿川 そうゑそふ

とぶんのことう 六下 むかまのふりしてうぶぶ。ぶしふ
トいふよ廿川いとう考〳〵て。大地ぶとなれしぶゐの
てんどゐ〳〵ふ〳〵てゐのよゐる男子をうゐゐとせしぶ
身心脳丸の形ゐれい血量とて血の色あがり廿川ハな
しゑ十七の花のぶうゐもゐ玉川の。花のゐうしふ咲らうてぶ
松原の嶽考と考〳〵て。ぞうゐ〳〵なりたり。法恵寺の
羽山ぶんど。廿川ゐ死がいく〳〵ゐを。ぶうとぶ考ぶ中せ一色。
ゐれゐうちんへ。いうゐとを考とぶうとゐにぶつとゐ廿川
ぶ考ゐいと。ぶどうゐをひぶ。ぶんゐるふ。玉川のうぶまく。ぶぐ
さ〳〵いとゐ。あと考〳〵ゐ〳〵とゐうふ

○ 淀川ゐ一念

むさ〳〵の向島よ名ゐぶさまゐすかゐみ山といけるハさう
さ〳〵岩と岩石ぶ。玉川のゐうれハ禁を。ぶ
ぐるぶうさ其へ。平蕪勝芦とうてとべて天外ユ一〳〵ゐる糸

ゆい青海原。西まをめハ。富士浅間。かうべをめぐらせハ蒼〳〵と
山づ〳〵あつて。波濤のとし。此山の形方にして。外のくさちのと
くあれハ。ますかゝ山をおもはせて外方山とよびあゝ。此
山さゝに外物のひくゝすなく。風色まことに天外の業ゆへ五湖
へまつたうさ世をを。のがれ私ゝさびゆる虫の声の切〳〵なる
ゐるをもとゝまつ〳〵ぬ月よりそゝ秋さ。香をゝゝき琵琶ゝさあすす
おもそあれ緑よそゝもゝゝき曇りそよゝ吹。子る風よつれ萩
のあるゝをもあるゝハ。あまめいとる女の声にく

五ゝ郎うさん。そなのけてくんあん（トヤのふさうぶことのぢち

まだ〳〵にあり。（五ゝ郎）志人さんなく〳〵ぴゝ（志人）ゝ五ゝ郎に
および女の声。狐狸の示為あるやかゝたてゝ
とゞゝとゞゝさんあうう（世川）そんあもものぢやぢんせぬ。

つゝとゝやうといか（五ゝ郎）ヤ〳〵その志ゝとハ（世川）せ川でおざん
とゝうといか（五ゝ郎）ヤ〳〵そゝせ川ぶ源義といゝとゝあつてぶゝまで
（世川）ふゝもとの人よ。ゝゝてきいゝた（五ゝ郎）（ハテ）能ゝてぶゝとうす
じやぶ。そゝておのゝ〳〵のぶだいてゝあるゝ（世川）（アイ）ぴゝ
いぬゝとゝあとゝ〳〵ぶゝとゝきゝゝたゝけいゝたゝぶでなりいす
（五ゝ郎）コレやい。そゝぶゝまでゝあゝとゝぶゝどのぶりをぶすて〳〵。志ぶ
あいゝあゝとゝぶゝんゝとゝぶゝてぴりゝゝ紙。桐山とゝゝふゝうけ
ぶゝれゝとゝぶ。ゝあゝとゝぶゝぬゝゝかゝとゝぶゝまゝぶのゝうゝ

あんぎやうをとりくしてゆうぎ
やうをすることなくせいめいさぞあんじて
いるであろうと思のほかもとどうぬぎのうへ
もいるろうとしかりくるやいかそうしろへ
人をやつてようすをさぐらせけば。そせいへ相山と申た
うけ出せしれどもうの申ふ尾をふつてさのゆくる
つをでるとさいと思のあれば乱れどのうれた
あるようとおりのおるのをてふいるをいるまい

とおもひしたあいてそも鼻の中つきてとむ祈りの御ど
をこがとうとい此身六祝のあきやうを待て山形よ来とのの
ぐ丸ぬをなとす。ふしのもかの丸をこうるとたてぐたう
トたぐさをしらべて。りよせてたくいろうんぐうしみのこぐ
せいいあるこぐよりれあぐくこけきりあんせんくくいち
づよ男ちあんとそのものよりつくものやうれどたんくのそのも
ようけい祈で御のようくいそんんド むりかあうけのうきあん
ぐさのくものくとまぐぐくしてチ玄の寄ちときあくしい
せあ身うけせられくおろうくものとい待ろうをさるうんも
あくくう部をうけたさられ死る命をあぐくくものぶ
ぐいい並ていまいちどいぐ祈ぐて山ふをぐうくし
志西くのもう志ぐくくくしくて一念ぐうぐきくくひ
あまくとものやくいぐうくとうくくいぐある

所をうしやうして。はれてとまりでくるうちのあるたいて
いやあくるこのあんぎやうからちやどさんせんうしとうい
とかうかいと二ぢでりおぶこまぜてゆうくとさくものを
ゆうぶてうもつしあるこせよあんまりむぢやをあとと
ちこーやうかいかうかうかさんを

あんこうむせうにうかうるコレをあこでものふうしやあんが
ちこのあよむりかう身結のゃ帯とろぬのとぴかーとぬし
てもわりやう身結さまこやうかゃ相山が女房とをゃつてく
穴くこ蒲のる尾ぴむりかう身結よりこでをたてぴうまこと
でさげきりにあんこのい傾城真女の孫とぴ今のせこと

もいつでいうあいう。猫ふあくうとあのまこぶ魂一時もぴうく
ろくくうせう

廿四

イエくこくこーやうイあまくの女房させう
せいーが乎のせうこと又相山がむりかうけやこぶうさ
ぬが。身のいくこけ死る命をぴうぶくこぶあうよやこーこと
かまくのこれをぴうんでこうこいぶ山くでいきていうこあぴた
ど志あの中きうのあいこうぶ。かまくいあぜそのゆう
こむりこぴふむりいうあんこをぴうやのんまりでかざん
せうぴうこぶいうしてぴうんこと記とする女房とぴいうく

こまるんゝ　又ぶ此世のぽゝあでいそゝいのこゑあげコレナ
ことけてたのむいいぶすぽ　せいどんをるに考こぶんて　さぞ
わんゝを考んもうかゝ　あさぶゆふゆそだぶうさ
ぶよぶ学ぶゆんぜいぶさせおまゝよもかうゝぶうぶい
らゝいとぶよの人よゆめさせてゝをぶれ　ぶゆんぶ
とぶさいとゝとぶいさよゝとゝ考いとかゝぶゝ
そんぶ物をぶさせてぶゝゝんるんとぶなのゝぶかゝとな
るゝゝぶ麻の中ぶるよゆぶうをぶかゝてゆてゝをぶん

とるゝとをふいてぽんぶうとゝと考とゆぶぬゝに
考ぶさいのゆるうのうふ　ほとゝいぶるよいねどか
あゝぶ子四人のゆゝぶゆものぶちを考ぶゝぶをうんとぶか
ト　あゝらぶきゝこゝ
考めぶゝ　ゆうゝゆそるゆぶぽんのゝゝ考ゝぶど
ゆゝつけ　ゆぶをうゆんゝとゝとゝ考ぶどちのゝゆゆ毎ゝ
ゆゆ毎ゆるのゝをぶゆんてゆもうゝんでゝゝゆんゆゆそゆゆとを
そぶてるゆぶさんをゆゝゝゝゆ百ぶいゝ大ぜんゝゝとゝのゝゝを
かうゝゝゝゝゝ他人ぶぶゆゆゝゝゆゆぶどゝ

やっぱり此母がかんどうをおもすぐやとおいものの
とれがをよあんとうすてくいるるとこぞかてきあいら
此ことをりよ。あどりあいいの帰さんどもこも涙をく
出るんしたたく秋のあ秋のあ秋のあ
ひとをかぐごをこのたのくこをを竹ふのうげうこうるあか
ことが。あいくこくんかとをうこいこも泣ようこを
世をとのがれてぐんるんしとるこぐ忘日をあるとして
わるい出くてもこれるんくたくあまこのぐくこ一番んの

あうこうの高ぐめいどのたのくこ巫山の蓋にあくねど
ものくこの雨をわこくとうてぐれるし
[廿四] 寺の鐘よ
あとうさて
王の後高ぐ王ぐうこるる宮もかるるあうやこうしの
弁慶島ぐめ　あこ弱くのぐのくの車ごりぐ
おこくぐということ思くい一ぎんの陸奥とおこ
中をまうて安房いくくぐうこぐあそうぐうこうんぐ
あれがぐの中をうこせもどれ

さてゝせ川は死さんして幽魂ちに成さてしまとりつゝ
わさせ〜う トゆをたきこのげて 新うちまもり 此今うゝおとせ〜いらぶる。
ふ〜ぎとしらふ。さめうとしいちふう堀ごうのさいごゝ
あゝさうゝ〜ト声ぐり〜まうんでぐあぐきゝ〜が伐木空谷響て
さゝたる蓮のねぐ〜をあぐ〜し旭日御とゝもに
出でぐあの数巻の神をてゝすぐゝ名香
乳をて〜ぐ〜ぐ〜ぐ

ちょうと見をいつまでもうゑ
○意角うゑをいつまべし
とものをくゆるべし○麻苧
ゆるがよし○初めこの内いろをぬすむ
てゆくゆうよりくべし○動
とうちゑ物をほしても利
るとしも有べし○口中
さうゑ紙の新しい紙の

○あんをとりてとりてぐんるとりて○さ安部
をそるにはあんがうぬぐとうまうらいとて
あとうぐとうの氣（き）よりうまうかせう蛤小
てぐくたいもいう餅○雷子（らいし）ぐ牡丹のごとく
きりしどまかりよ手をつくべし○かうまぐけら
あるをぐくべし○まぐ板（まな）ぐ板の
餅（もち）をとんしぐ毛あるたぐ
あふ餅

慶應